

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	竹原市立吉名小学校		
学校長氏名	清水 真人	栄養教諭氏名	高瀬 朋子
職員数	14名	児童・生徒数	110名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- 食事マナーアンケートでは、児童と保護者の肯定的評価に差がある。
- 基本的な生活習慣に課題のある児童が固定化している。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- 食育計画をもとにした食育の推進
 - ・全教員による給食指導と各種検定により、食事マナーを徹底させる。
 - ・全ての教諭による給食指導を実施し、「食事作法や食事の大切さがわかった」と答える児童90%以上を目指す。
 - ・栽培活動を通して食の興味関心を高め、地域の産物のよさを知り、収穫の喜びや感謝の心を育てる。
 - ・「自分達で育て、収穫することに熱心に取り組んだ」と答える児童90%以上を目指す。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 食事マナーに気をつける児童の割合の増加

○元気いっぱいカード週間の取組

- ・食事マナーの定着に向けて、給食の時間を中心に取り組んでいる。学校で実施後、元気いっぱいカードを家庭に持ち帰り、家庭でも実践できるように取り組んでいる。また、長期休業中にも元気いっぱいカード週間を実施し、家庭でのマナーの定着に取り組んでいる。

○おはし検定

- ・正しい箸の持ち方は正しい鉛筆の持ち方につながることから、1年生を中心におはし検定に取り組んでいる。児童は、保護者から正しい箸の持ち方を教わるなど家庭の協力が得られている。また、取組内容を食育だよりで発信し習得への意欲向上を図っている。

【取組2】（テーマ） 栽培活動の充実

○栽培活動の充実

- ・栽培活動を通して食への興味関心を高め、地域の産物を理解し、収穫の喜びや自然の恵みに感謝する心や食文化を尊重する心を育てることをねらいとして年間計画に基づき実施している。
- ・栽培活動を豊かなものにするために、地域生産者からの栽培指導や保育所・中学校との交流活動を仕組んでいる。また、収穫物を地元の産直市や町内イベントで販売することで相手意識や目的意識をもたせる活動を仕組んでいる。さらに、収穫物を使った料理を考案し、料理コンテストへ出品したり、親子料理教室で活用したりすることで児童は意欲的に活動している。

【取組3】(テーマ) 早寝・早起き・3色朝ごはんに気をつける児童の割合の増加

○元気いっぱいカード週間の取組

今年度は、義務教育学校開校に向けて小中合同で元気いっぱいカード週間に取り組み、成果と課題を共有している。課題項目については、翌月に重点目標とし校内全体で取り組んでいる。

○保護者用啓発資料の作成

朝食内容の例や3色食品群、朝食の働きなどを示した「3色朝ごはんマット」を作成し家庭へ配布している。

○企業連携

6年生を対象に、企業の研究データをもとに朝食と睡眠の重要性について出前講座を実施した。

○健康相談

生活リズムや朝食に課題のある児童を対象に、個人懇談後に保護者と養護教諭、栄養教諭が個別相談を行っている。児童の学校生活や家庭生活を共有し、課題解決の糸口を見出す機会としている。これらは記録をとり、経過観察や経過記録に基づく指導の充実を図っている。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

○5年生は総合的な学習の時間に、自分の好きな家庭料理に地場産物を取り入れたレシピを考案し応募した。

○6年生は家庭科で、ひろしま給食を広めることをねらいに学習をした。ひろしま給食の調理手順を動画で作成し、ナレーションや字幕を加えて編集した。また、ARで自由に視聴できるように通信で発信した。

○食育だよりや校内掲示物で、ひろしま給食100万食プロジェクトの概要とひろしま給食5つのメニューの作り方などを啓発した。

○スーパーマーケットでひろしま給食レシピやチラシを配布した。

○生活科や総合的な学習の時間、親子料理教室で、収穫物を活用したひろしま給食メニューを調理した。また、収穫物を家庭へ持ち帰ることで、家族と一緒にひろしま給食を作って食べる機会とした。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

○食事マナーの定着

【食事マナーに気をつけている】

児童 中間肯定的評価 100% 最終肯定的評価 99%

保護者 中間肯定的評価 89% 最終肯定的評価 95%

- ・全教員による給食指導とおはし検定により、食事マナーの定着化を図った。
- ・家庭でも食事マナーを意識させるため、夏休みと冬休み元気いっぱいカード週間に取り組んだ。マナーのめあてを保護者と相談して決めたことで、マナーを守ろうと

する意欲態度につながった。また、家庭のマナーに関する評価を追加したことで、保護者の意識も向上した。

- ・1年生を中心に、正しい箸の持ち方の習得にむけておはし検定に取り組んだ結果、家で練習する児童も多く上達している。

○栽培活動の充実

【野菜などを自分で育て、収穫することに積極的に参加することができた】

児童 中間肯定的評価 97% 最終肯定的評価 97%

保護者 中間肯定的評価 89% 最終肯定的評価 95%

- ・地域生産者からの専門的な指導を受けることで、探究的に活動することができた
- ・保育所や中学校との交流活動を通して相手意識、目的意識をもたせたことで栽培意欲の向上につながった。

○朝食内容の改善

【3色そろった朝ごはんを食べる児童の割合】

平成29年1月88% → 平成30年1月90%

【2色食べた児童の割合】

平成29年1月8% → 平成30年1月6%

- ・元気いっぱいカードの保護者コメントでは、「3色そろうように作っている」「子どもと朝食メニューを考えて作っている」など、よりよい朝食にしようとする意欲が伺えた。
- ・朝食に課題のある児童を対象に個別面談をした結果、家庭科で学んだことを生かして自ら実践し、食生活をよりよくしようとする姿が見られた。

【課題】

- 食事マナーに気をつけていると答えた児童はほとんどであるが、食事マナーが定着していない児童もいる。
- 元気いっぱいカード週間中は生活リズムの達成率が高いが、習慣化していない児童もいる。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- 食事マナーの定着を図るため、内容の見直しを図り、引き続き家庭と連携して取り組む。
また、学級懇談等を活用し食事マナーについて話をする機会を設ける。
- 義務教育学校開校に向けて系統的な食育の推進を図る。